

国際基督教大学ジェンダー研究センター編集委員会規定、 紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』専用 APA 論文作成マニュアル

本マニュアルは、アメリカ心理学会 (APA) が発行する *Publication manual of the American Psychological Association* (5th ed.) をもとに、国際基督教大学ジェンダー研究センターの編集委員会が、当研究センター発行の紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』の論文作成スタイルとして独自に作成したものである。

注意

本マニュアルは、紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』掲載論文の要求に応じて、アメリカ心理学会 (APA) の定める規定を若干変更している。

凡例

APA 記述構造上のスペースは■で、記述構造とは関係のないスペースは■で示してある。

APA 記述においては英数字や記号はすべて半角で記述し、特に数字はアラビア数字以外の使用を認めない（地の文の記述における句点・読点・各種括弧は全角で記述する）。

引用文に半角にない記号（①、②、③、★、～, etc.）が使われている場合にのみ、全角の記号の使用を認める。

ローマ数字（i, ii, iii, iv, I, II, III, IV, etc.）は半角英字 ivxIVX の組み合わせですべて記述できるので、全角数字の変換で得られる全角の記号（i、ii、iii、iv、I、II、III、IV, etc.）で記述することは認めない。

半角丸括弧(), 半角角括弧[], ピリオドやカンマ.,などは、全角にも似た記号があるため、混同しないように注意が必要。

【注意】本マニュアルで例示されている References（引用作品リスト）中の書籍・論文等は、実在のもの、実在のものを基に作成した架空のもの、完全に架空のもの、等が注意書きなく混在している。よって本マニュアルの記述を流用しないこと。

1 本文における APA 記述について

1.1 論文の構成

論文は以下の構成で作成すること。

- ・ 表紙（標題、論文執筆者、Author note）
- ・ 本文
- ・ References
- ・ Footnotes
- ・ Tables
- ・ Figures
- ・ Appendixes

表紙について

1) 論文タイトル

英語の場合、論文タイトルは冠詞、前置詞、接続詞として機能している語以外の全てをタイトルケース（頭文字のみ大文字）にして記述する。

2) 論文執筆者と所属機関

Author note は表紙に記述するが、その記述の Template は以下の通り。

苗字名前, 苗字名前, and 苗字名前
三鷹, 東京

苗字名前, 苗字名前, and 苗字名前
国際基督教大学

苗字名前, 苗字名前, and 苗字名前
一橋大学

Given M. Surname Suff., Given M. Surname Suff., and Given M. Surname
Suff.
Mitaka, Tokyo

Given M. Surname Suff., Given M. Surname Suff., and Given M. Surname
Suff.
International Christian University

Given M. Surname Suff., Given M. Surname Suff., and Given M. Surname
Suff.
Hitotsubashi University

論文の執筆者を、執筆時の所属機関ごとにまとめて、上記のように記述する。
所属機関がない場合は、所在地を「第二級行政区画, 第一級行政区画」の形で記述する。日本であれば「区市町村, 都道府県」、アメリカであれば「State, City」。

執筆者名はただ氏名を記述するにとどめ、Dr. や Professor といった title や、PhD や PsyD や EdD といった Degree を記述してはならない。

■論文執筆者名の構成

- ・ Given names を (Middle name(s)がある場合はそれらも全て) イニシャルで
- ・ Surname
- ・ Suffix (Jr.や III などがある場合のみ)

の3部によって、この順で構成される。

論文執筆者名は名→姓の順で記述する (日本語人名・日本語に転写された人名を除く)。

○これら人名の各構成要素はピリオド等で終止せず、またそれぞれの要素間は、著者位置と違い、カンマを打たずにただ半角スペースで区切る (日本語人名除く)。

Given name・Middle name(s)のイニシャルや Jr の直後のピリオドは、一見これら要素の終了のようにも見えるが、実際はそれらが省略形であることを意味するだけのものである (ピリオドを打つのは Suffix では Jr だけで III 以降はピリオドなし)。

各論文執筆者名一人一人 (一団体一団体) の末尾には、執筆者名の終止を意味するピリオドを打たない。Given name・Middle name(s)のイニシャルや Jr が省略形であることを意味するピリオドが、一見執筆者名の終止ピリオドのようにも見えるが、実際はそれらが省略形であることを意味するだけのものである (ピリオドを打つのは Suffix では Jr だけで III 以降はピリオドなし)。

3) Author note

(1) 第一パラグラフ: 詳細な論文執筆者と所属機関

記述の形式は以下の通り。

苗字名前, ■三鷹, ■東京; 苗字名前, ■三鷹, ■東京; 苗字名前, ■三鷹, ■東京; 苗字名前, ■ジェンダー・セクシュアリティ研究, ■国際基督教大学; 苗字名前, ■ジェンダー・セクシュアリティ研究, ■国際基督教大学; 苗字名前, ■ジェンダー・セクシュアリティ研究, ■国際基督教大学; 苗字名前, ■ジェンダー社会科学センター, ■一橋大学; 苗字名前, ■ジェンダー社会科学センター, ■一橋大学; 苗字名前, ■ジェンダー社会科学センター, ■一橋大学。

Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Mitaka, ■Tokyo; Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Mitaka, ■Tokyo; Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Mitaka, ■Tokyo; Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Center for Gender Studies, ■International Christian University; Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Center for Gender Studies, ■International Christian University; Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Center for Gender Studies, ■International Christian University; Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Center for Gender Research and Social Sciences, ■Hitotsubashi University; Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Center for Gender Research and Social Sciences, ■Hitotsubashi University; Given ■M. ■Surname ■Suff., ■Center for Gender Research and Social Sciences, ■Hitotsubashi University.

「2) 論文執筆者と所属機関」と違って、執筆時の所属機関でまとめず、各執筆者を全員個別に執筆する。

(2) 第二パラグラフ: 所属機関の変化 (あれば)

執筆者の中に、執筆時から所属機関に変化があった者があれば、以下の形式で記述する。

苗字名前 is now at ジェンダー・セクシュアリティ研究, 国際基督教大学.

Given M. Surname Suff. is now at Center for Gender Studies, International Christian University.

(3) 第三パラグラフ: Acknowledgments

論文執筆に

- ・ 経済的に
 - ・ 研究・実験への具体的な協力として
- 貢献した人物・団体を記述する。

議論に示唆を与えてくれた、等の謝辞はここでは記さず、本文中の該当箇所か、本文中の該当箇所に対する Footnote で記述すること。

基本的な記述は、

本研究の一部は、〇〇、□□、及び△△からの助成によるものである。また本研究に対し、〜〜〜において協力のあった苗字名前、苗字名前、及び苗字名前に感謝の意を表す。〜〜〜においては、苗字名前、苗字名前、及び苗字名前からの協力を受けた。ここに感謝の意を表す。

This research was supported in part by ++, \$\$, and ¥¥. We thank Given M. Surname Suff., Given M. Surname Suff., and Given M. Surname Suff., who did ~~~, and those who did ~~~.

(4) 第四パラグラフ: 連絡先

論文執筆者一人への連絡先を英語で記述する。

Correspondence concerning this article should be addressed to Given M. Surname Suff., Center for Gender Studies, International Christian University, 3-10-2, Osawa, Mitaka, Tokyo, Japan.
emailaddress@icu.ac.jp

1.2 見出しの段階、箇条書き、文中の要素区切り、Table や Figure の項目のナンバリングの記述

1.2.1 見出しの段階に関する独自ルール（CGS 紀要専用ルール）

正規の APA マニュアルでは、大文字小文字やアラインメントなどを使い分けることで 5 つのレベルの見出しの段階が用意されているが、日本語論文の場合は大文字小文字の使い分けができないため、CGS 紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』においては、日本語論文・英語論文にかかわらず以下のように見出しのナンバリングによって独自に段階を設定する。

1 ■ Heading

1.1 ■ Heading
1.2 ■ Heading
1.3 ■ Heading

2 ■ Heading
2.1 ■ Heading

2.2 ■ Heading
2.2.1 ■ Heading
2.2.2 ■ Heading
2.2.3 ■ Heading

3 ■ Heading
3.1 ■ Heading

3.2 ■ Heading
3.2.1 ■ Heading
3.2.2 ■ Heading
3.2.3 ■ Heading

3.3 ■ Heading
3.3.1 ■ Heading
3.3.1.1 ■ Heading
3.3.1.2 ■ Heading
3.3.1.3 ■ Heading

3.3.2 ■ Heading
3.3.2.1 ■ Heading
3.3.2.2 ■ Heading
3.3.2.3 ■ Heading

4 ■ Heading
4.1 ■ Heading

4.2 ■ Heading
4.2.1 ■ Heading
4.2.2 ■ Heading
4.2.3 ■ Heading

4.3 ■ Heading
4.3.1 ■ Heading
4.3.1.1 ■ Heading
4.3.1.2 ■ Heading
4.3.1.3 ■ Heading

4.3.2■Heading
4.3.2.1■Heading
4.3.2.2■Heading
4.3.2.3■Heading

4.4■Heading
4.4.1■Heading
4.4.1.1■Heading
4.4.1.1.1■Heading
4.4.1.1.2■Heading
4.4.1.1.3■Heading

4.4.1.2■Heading
4.4.1.2.1■Heading
4.4.1.2.2■Heading
4.4.1.2.3■Heading

4.4.2■Heading
4.4.2.1■Heading
4.4.2.1.1■Heading
4.4.2.1.2■Heading
4.4.2.1.3■Heading

4.4.2.2■Heading
4.4.2.2.1■Heading
4.4.2.2.2■Heading
4.4.2.2.3■Heading

文字色はレベルをわかりやすくするためのもので、論文内では行わない。

見出しナンバーの並び順は以上の例を参考にされたい。ナンバーの後に半角スペースを置いて、見出しを記入する。アラインメントは左揃えか両端揃えとする。

数字の間にはスペースなしでピリオドを挿入し、**末尾**にはピリオドを置かない。また、例えば上記の例の後に続けて 4.4.2.2.3.1 のような 6 ケタの見出しを置いてはいけない。見出しは 5 ケタ（5 つのレベル）までとする。

あるレベルの見出し数が 10 を越える場合は以下のように記述する。

4.4■Heading
4.4.1■Heading
4.4.1.1■Heading
4.4.1.1.01■Heading ←これは、このレベルが 10 を越える場合の例
4.4.1.1.02■Heading
4.4.1.1.03■Heading
4.4.1.1.04■Heading

- 4.4.1.1.05 ■ Heading
- 4.4.1.1.06 ■ Heading
- 4.4.1.1.07 ■ Heading
- 4.4.1.1.08 ■ Heading
- 4.4.1.1.09 ■ Heading
- 4.4.1.1.10 ■ Heading
- 4.4.1.1.11 ■ Heading

1.2.2 箇条書きの段階（CGS 紀要専用ルール）

正規の APA マニュアルによれば、改行を入れて箇条書きにする場合は、

- 1.
- 2.
- 3.

のようにすることとなっている。

しかし 1.1.1 に示したように、すでに見出しの段階に半角アラビア数字＋半角ピリオドを使ってしまっているので、CGS 紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』においては、日本語論文・英語論文にかかわらず以下のように独自に箇条書きを設定する。

- 1) ■ item
- (1) ■ item
- (2) ■ item
- (3) ■ item

- 2) ■ item
- (1) ■ item
- [1] ■ item
- [2] ■ item
- [3] ■ item
- (2) ■ item
- [1] ■ item
- [2] ■ item
- [3] ■ item
- (3) ■ item
- [1] ■ item
- [2] ■ item
- [3] ■ item

- 3) ■ item
- (1) ■ item
- [a] ■ item
- {1} ■ item
- {2} ■ item
- {3} ■ item
- [2] ■ item

- {1}■item
- {2}■item
- {3}■item
- [3]■item
- {1}■item
- {2}■item
- {3}■item
- (2)■item
- [1]■item
- {1}■item
- {2}■item
- {3}■item
- [2]■item
- {1}■item
- {2}■item
- {3}■item
- [3]■item
- {1}■item
- {2}■item
- {3}■item

文字色はレベルをわかりやすくするためのもので、論文内では行わない。

ここで箇条書きの例を兼ねて、解説箇条書きに関する注意事項を記す:■

- 1)■箇条書きの段階レベルは、当センター紀要のマニュアルでは上記のとおり 4 段階用意されてはいるが、構造の複雑な箇条書きは避けるよう注意すること。
- 2)■箇条書きに入る直前の文章（箇条書きの紹介文）は文として一旦終結している必要がある、句点（。）やピリオドではなく「:■」で終止した上で改行する。
- 3)■箇条書きは「1 項目=1 段落（かそれ以上）」扱いになるので、箇条書きの次の文章は必ず新しい段落になっていなければならない。
- 4)■箇条書きの 1 項目を 1~複数の段落として扱えない／扱いたくない場合は、1.1.3 の「文中の要素区切り」を行うこと。
- 5)■箇条書きはインデントしない。

1.2.3 文中の要素区切り（CGS 紀要専用ルール）

正規の APA マニュアルによれば、段落中や文中でいくつかの要素をわかりやすく区切って列挙する場合は、

(a)→(b)→(c)→……

のようにすることとなっている。

文中の要素区切りは、当センター紀要においても正規 APA マニュアルが指示するものと同じく、日本語論文・英語論文にかかわらず、

(a)→(b)→(c)→(d)→……

のように示す。

基本的に文中の要素区切りにはレベル設定は必要ないが、場合によっては、

(a)→(b-1)→(b-2)→(b-3)→(c-1)→(c-2)→(c-3-1)→(c-3-2)→(c-3-3)→(d)→……
のようにしてレベルを設定する。

文字色はレベルをわかりやすくするためのもので、論文内では行わない。

文中の要素区切りには、(a)該当文を一旦書きあげた後で、文中の各要素に要素区切り文字を割り当てるタイプと、(b)より箇条書きに近いタイプの2つがある。左の一文は(a)のタイプである。

1.2.3.1 (a)該当文を一旦書きあげた後で、文中の各要素に要素区切り文字を割り当てるタイプ

1) 日本語における注意点

(a)のタイプの要素区切りのメリットは、(a-1)書き手にとっては文中の各要素を際立たせて文意をはっきりさせられる上に、(a-2)読み手にとってもストレスなく文章を読み進められるという点である。ここからもわかるように、(a)のタイプの要素区切りでは、各要素は特別な記号ではなく通常どおり句点(、)で区切られる。日本語の場合は、要素の中にすでに句点(、)が使用されていてもかまわない。

2) 英語における注意点

(a)のタイプの要素区切りは、英語論文の場合も基本的には日本語と同じ書き方となるが、言語の違いによって文中要素区切りに若干の違いが生じるので、注意すること。英語の場合の例は以下ようになる。

The participant's three choices were (a) working with another participant, (b) working with a team, and (c) working alone.

日本語との違いは、分かち書きをするという英語の言語的特徴に従って、要素区切り文字の前後に必ず半角スペースが置かれるという点、また当然句点(、)ではなくピリオド(.)で各要素が終止する点である。この違いはAPAマニュアルの定めるところによるものではなく、純粹に言語の違いによるものである。日本語表記は分かち書きをしない(語と語の間にスペースを置かない)ため、要素区切り文字の後にスペースをいれずに文章が続くが、ローマン・アルファベット系言語のほとんどすべてが分かち書きを基本としているため、語と語の間には特別な理由がないかぎりスペースが挿入される。

1.2.3.2 (b)より箇条書きに近いタイプ

1) 日本語における注意点

(b)の、より箇条書きに近いタイプの文中要素区切りの利点とは以下のようなものである: (b-1)一旦文章を書き上げて後から各要素に区切り文字を割り当てるタイプよりも、箇条書きに近いタイプのほうが自然な文章でない分、逆に読む者の印象に残りやすい; (b-2)箇条書きに比べて改行(改段落)しないため、御覧のようにスペースをとらない; (b-3)同一論文内により重要な箇条書きがある場合、箇条書きに近いタイプの文中要素区切りを用いることにより、それより重要性が低い要素群であることが示せる。

このように「より箇条書きに近いタイプ」の文中要素区切りの場合、各要素に入る前に、直前の文章（続く要素群の紹介文）が文として一旦終結している必要があり、しかも句点（。）やピリオドではなく「:」で終止する。

また日本語の場合は、要素の中に句点（、）が使用されていてもいなくても、各要素は、日本語論文の場合は「;」で連結される。

2) 英語における注意点

These activities highlighted the unique features of CGS, such as (a) Incorporating perspectives of sexuality into Gender Studies (which has tended to be preoccupied with women's studies) to further criticize the male/ female dichotomy; (b) Relativizing the gender theories of Europe and the United States from the perspective of "Asia"; (c) Valuing bilingualism (Japanese and English) to disseminate information from Japan to the rest of the world; and (d) Encouraging student staff members to take initiative and fully exercise their skills.

日本語との違いは、第1に1)「該当文を一旦書きあげた後で文中の各要素に要素区切り文字を割り当てるタイプ」と同じく、分かち書きをする英語の言語的特徴に従って、要素区切り文字の前後に必ず半角スペースがおかれる点である。

英語論文における「より箇条書きに近いタイプ」の文中要素区切りで注意すべき点はもう一つある。要素のどれか一つにでもカンマが含まれていれば日本語の場合と同じく「;」で各要素を連結するが（この場合最後の要素はさらに and が挿入されている）、どの要素にもカンマが使われていなければ、「:」で各要素をつなぐのである。以下に例を記す: (a) Use commas after each sources if each sources do not contain a comma, (b) Semicolons should separate individual sources when there is a comma in a source, (c) Always use semicolons to separate individual sources if the paper is written in Japanese.

1.2.4 Table 中・ Figure 中の項目にナンバーを振りたい場合（CGS 紀要専用ルール）

正規の APA マニュアルによれば、Table 中や Figure 中の項目にナンバーを振りたい場合は、

1. item
2. item
3. item
4. item

...

という風に振っていくべきとされているが、箇条書きの時と同じく、CGS 紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』においては「アラビア数字+ピリオド」はすでに見出しで使用されているので、CGS 紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』においては、Table 中や Figure 中の各項目にナンバーを振りたい場合は、日本語論文・英語論文にかかわらず

- [1] item
- [2] item

[3] ■item

[4] ■item

...

という風にナンバーを振ることと定める。必要に応じて、

[1] ■item

[2-a] ■item

[2-b] ■item

[3-a] ■item

[3-b] ■item

[3-c] ■item

のようにしてレベルを設定してもよい。

文字色はレベルをわかりやすくするためのもので、論文内では行わない。

1.3 本文の記述

1.3.1 日本語論文の記述の注意点

日本語では語と語の間にスペースを挟まない（分かち書きをしない）ため、日本語論文の本文では特別な理由がないかぎり■（半角スペース）は挿入されないし、されるべきではない。また使用される句読点や記号についても、全角のものを使用すべきである。使用すべき句点は「。」、読点は「、」である。「.」と「,」は、引用元で使用されているものを転写する場合を除いて使用を認めない。

1.3.1.1 半角で記述されるべきもの: 本文中で使用される数字、記号、アルファベット

当センター紀要においては、日本語論文においても全角のアラビア数字・ローマ数字やアルファベット、記号の使用は原則として認められていない。但し、引用文において全角数字や丸囲み文字（①、②、③...）が使用されている際はそのまま転写すること。

e.g.,

CGS ニュースレター001号によれば、CGSの使命とは「①アジアにおけるネットワーク作り、②日本からの情報発信、③ジェンダー研究の発展」であるという。

括弧に関しては、APAの記述の場合（本文中出典明記など）を除いて、本文の一部を丸括弧で囲う場合には全角丸括弧を使用する。

記述間違いの中で頻繁に見られるのはローマ数字の間違いである。1、2、3を日本語変換して得られるⅠ、Ⅱ、Ⅲ等は日本語のフォントであり、引用元で使用されているのでない限り使用は認められない。半角英数のixlVXを重ねて表記すること。

1.3.1.2 半角で記述されるべきもの: APAで使用が認められているラテン語の省略系

当センター紀要においては、括弧の中で「例えば」、「～を参照の事」、「すなわち」、「言いかえれば」、「～など」といった内容を示す場合、日本語論文においても英語論文向けのAPAマニュアルに合わせて、以下の例に示すようにラテン

語省略形を使用する。その場合は半角スペースが適宜挿入され、半角のカンマやピリオドが使用される。

1) (例えば ICU ジェンダー研究センター)

→ (e.g., ICU ジェンダー研究センター)

2) (『CGS ニュースレター011号』を参照の事)

→ (cf. 『CGS ニュースレター11号』)

3) CGS のミッション (すなわちアジアにおけるネットワーク作り、日本からの情報発信、そしてジェンダー研究の発展) ...

→ CGS のミッション (viz., アジアにおけるネットワーク作り、日本からの情報発信、そしてジェンダー研究の発展) ...

4) アメリカ心理学会発行の APA 論文作成マニュアルをもとにジェンダー研究センターが独自に作成した APA 論文作成マニュアル (つまり CGS 紀要専用論文作成マニュアル)

→ アメリカ心理学会発行の APA 論文作成マニュアルをもとにジェンダー研究センターが独自に作成した APA 論文作成マニュアル (i.e., CGS 紀要専用論文作成マニュアル)

5) (句点、読点、括弧など)

→ (句点、読点、括弧, etc.)

viz. と i.e. は、viz. が「詳しく言えば」といったニュアンスであるのに対し、i.e. は「つまるところ」「言いかえれば」といったニュアンスである。

1.3.1.3 半角で記述されるべきもの: 日本語論文中に分かち書きをする言語の作品から引用する場合

分かち書きをする言語の語句を挿入したり、分かち書きをする言語の作品を引用したりする場合は、当然日本語の文中でも半角スペースや半角のカンマ・ピリオド等が発生する。

e.g.,

ジェンダー・セクシュアリティ研究プログラム (Program in Gender and Sexuality Studies, PGSS) は、ICU の 4 番目の学際プログラムとして 2005 年度に開設されました

という文章では英語の分かち書きに従って半角スペースが挿入されている。

日本語に続いてその語の英語訳を記述する場合、全角丸括弧 () で囲う上記の例のような書式の他に、括弧なしで並置するやり方も認められている。

e.g.,

ジェンダー・セクシュアリティ研究プログラム Program in Gender and Sexuality Studies, PGSS は、ICU の 4 番目の学際プログラムとして 2005 年度に開設されました

その場合、挿入されたローマン・アルファベット系の語句の最初と最後 (日本語との境) には半角スペースを入れない。

1.3.1.4 半角で記述されるべきもの: 見出し、箇条書き、文中要素区切り、Table/Figure の項目などに用いる番号、記号や文字

すでに見てきたように、見出し、箇条書き、文中要素区切り、Table/Figure の項目などに用いる番号・記号・文字は、本来英語論文向けの APA マニュアルに合わせて、日本語論文においてもすべて半角で記述する。丸括弧、角括弧、波括弧、ピリオド、カンマは全角にも似たものがあるが、混同して全角を使わないように注意が必要である。

1) 見出し、箇条書き、Table/Figure の項目の記述における半角スペース

1) ■Heading

1) ■item

[1] ■item

見出し、箇条書き、Table/Figure の項目の記述はと決められており、日本語論文であっても各ナンバーと見出しや項目の間に半角スペース■が入る点にも注意が必要である。

2) 「より箇条書きに近いタイプ」の文中要素区切りにおける、要素間の連結
すでに示されたように、「より箇条書きに近いタイプ」の文中要素区切りにおける要素間の連結には、本来英語論文向けの APA マニュアルに合わせて、日本語論文においても「;■」を用いる。以下に 1.1.3.2 の 1) の例を若干変更して（最後の要素の前に「そして」と入れた）再掲する。

「より箇条書きに近いタイプ」の文中要素区切りの利点とは以下のようなものである:■(b-1)一旦文章を書き上げて後から各要素に区切り文字を割り当てるタイプよりも、箇条書きに近いタイプのほうが自然な文章でない分、逆に読む者の印象に残りやすい;■(b-2)箇条書きに比べて改行（改段落）しないため、御覧のようにスペースをとらない;■そして(b-3)同一論文内により重要な箇条書きがある場合、箇条書きに近いタイプの文中要素区切りを用いることにより、それより重要性が低い要素群であることが示せる。

以上のように日本語論文の場合は常に「;■」で連結するが、1.1.3.2 の 2) でも示したように英語論文における「より箇条書きに近いタイプ」の文中要素区切りでは、要素のどれか一つにでもカンマが含まれていれば日本語の場合と同じく「;■」で各要素を連結するが、どの要素にもカンマが使われていなければ、「,■」で各要素をつなぐという点にも注意が必要である。以下に例を記す:■(a)■Use commas after each sources if each sources do not contain a comma,■(b)■Semicolons should separate individual sources when there is a comma in a source,■(c)■Always use semicolons to separate individual sources if the paper is written in Japanese.

1.3.1.5 半角で記述されるべきもの: ■引用作品のタイトルや論文内の見出しが二部構成の場合

二部構成のタイトル・見出しとは、一般的にサブタイトル・サブ見出しと呼ばれているものが、タイトルや見出しについている状態のことである。本来英語論文向けの APA マニュアルに合わせて、日本語論文においても上記見出しの例のように、メインの見出しとサブ見出しの間を「:■」で連結する。

1.3.1.6 半角で記述されるべきもの: ブロック引用の直前の文の終止の仕方

ブロック引用の直前の文（ブロック引用の導入文）は、2.3.05 で見た「箇条書きに入る直前の文章（箇条書きの紹介文）」や「箇条書きに近いタイプの文中要素区切りの場合の、各要素に入る直前の文章（要素群の紹介文）」と同じく「:」で終止する。以下に例を示す。

上野千鶴子によれば、近代において「恋愛」とは、以下のような機能を孕んだものであるという:

近代家父長制は核家族の中の「夫の支配」を可能にするために、女を実家から切り離す言説に満ちている。その意味で「恋愛」とは、女が「父の支配」から「夫の支配」へと自発的に移行するための爆発的なエネルギーのことだと、言ってよいかもしい。 (上野, 1994, p. 52)

ブロック引用においては、ブロック直前や直後で 1 行空けたりしないこと。

1.3.1.7 半角で記述されるべきもの: 本文中の出典明記

本文中出典明記における大原則

- Contribution は記述しない
- 書いていいのは苗字だけ
(阿井, 1996, p. 00)
(Ai, 1996, p. 00)
- 著者位置の貢献者 2 名 → 常に 2 人とも明記
(阿井 & 垣, 1996, p. 00)
(Ai & Kaki, 1996, p. 00)
- 著者位置の貢献者 5 名までなら最初の記述は全員記述
(阿井, 垣, 伽菊, 刺洲, & 車史, 1996, p. 00)
(Ai, Kaki, Kyakiku, Sashisu, & Shashi, 1996, p. 00)
→ 二回目から先頭の一人だけ記述して後は et al. で省略
(阿井 et al., 1996, p. 00)
(Ai et al., 1996, p. 00)
- 著者位置の貢献者 6 名以上なら、最初から一人だけ記述して後は et al. で省略
× (阿井, 垣, 伽菊, 刺洲, 車史, & 太刀, 1996, p. 00)
× (Ai, Kaki, Kyakiku, Sashisu, Shashi, & Tachi, 1996, p. 00)
○ (阿井 et al., 1996, p. 00)
○ (Ai et al., 1996, p. 00)
- 名前の省略で見かけ上同姓同名になってしまったときは?
(Ai, 1996, p. 00)
(Ai, 1996, p. 00)
→ 該当者を両方 (3 人いたら 3 人とも) フルネーム記述する。
- フルネームでも、イニシャル化のせいで見かけ上同姓同名になってしまったときは?

(U. ■M. ■Ai, ■1996, ■p. ■00)

(U. ■M. ■Ai, ■1996, ■p. ■00)

→Given name をイニシャルではなくフルで書く

●Given name をフルで書いても見かけ上同姓同名になってしまうときは？

(Ueo ■M. ■Ai, ■1996, ■p. ■00)

(Ueo ■M. ■Ai, ■1996, ■p. ■00)

→その場合は Middle names もフルで書く。

(Ueo ■Madeleine ■Ai, ■1996, ■p. ■00)

(Ueo ■Maria ■Ai, ■1996, ■p. ■00)

■本文における出典の明記での貢献者名（人名）の構成

通常は姓だけの記述となるが、事情があってフルネームで記述する場合は以下のことに注意。

○本文において人名は

・ Given names を（Middle name(s)がある場合はそれらも全て）イニシャルで

・ Surname

・ Suffix（Jr.や III などがある場合のみ）

の3部によって、この順で構成される。

本文中では、貢献者名は名→姓の順で記述する（日本語人名・日本語に転写された人名を除く）。

※当紀要への投稿論文では、必ずしも Given name をイニシャルに省略する必要はないが（日本語人名や日本語に転写された人名では、そもそもイニシャルにできない）、論文を通して省略するかしないかについて統一されている必要がある。また、Given name をイニシャル化しない場合でも、Middle names は必ずイニシャル化すること（e.g., S. ■E. ■Aga と Satana ■E. ■Aga）

○これら人名の各構成要素はピリオド等で終止せず、またそれぞれの要素間は、著者位置と違い、カンマを打たずにただ半角スペースで区切る（日本語人名除く）。

Given name・Middle name(s)のイニシャルや Jr の直後のピリオドは、一見これら要素の終了のようにも見えるが、実際はそれらが省略形であることを意味するだけのものである（ピリオドを打つのは Suffix では Jr だけで III 以降はピリオドなし）。

著者位置とは違って、各貢献者名一人一人（一団体一団体）の末尾には、貢献者名の終止を意味するピリオドを打たない。Given name・Middle name(s)のイニシャルや Jr が省略形であることを意味するピリオドが、一見貢献者名の終止ピリオドのようにも見えるが、実際はそれらが省略形であることを意味するだけのものである（ピリオドを打つのは Suffix では Jr だけで III 以降はピリオドなし）。

1) 基本的な本文中の出典明記

(1) かぎ括弧・コーテーションマークに囲った形での引用

「〜〜〜引用文〜〜〜」(阿井, ■垣, ■& ■伽菊, ■1996, ■p. ■00)。

“-----reference-----” (Ai, ■Kaki, ■& ■Kyakiku, ■1996, ■p. ■00)。

本文中では、引用の出典を上記のように表記する。

貢献者名は、同姓の貢献者が複数並ばない限り、ファミリーネームのみ表記。同姓の貢献者が半角丸括弧内に複数並ぶ場合は、同姓の貢献者の見フルネームで記述する。

日本語貢献者名以外は、丸括弧も含めて全て必ず半角で記述されなくてはならない。ブロック引用の場合も同じ。

引用文は、たとえ引用元で句点（。）やピリオドで終止していた場合でも、括弧やコーテーションマーク内では句点・ピリオドで終止しない。句点・ピリオドは本文中出典明記の半角丸括弧が終わった直後に打つこと。

単独ページからの引用の場合は p. ■00、複数ページに及ぶ引用の場合は pp. ■00-00 と記述する。

出版年月日については、論文末 References と同一の記述でよいため、長期間かけて出版されたものである場合は

1998-2005

のようにハイフンでつなげた記述になり、定期刊行物の場合は

2008, ■January

または

2008, ■January ■1

のように月や日まで記述する。

(2) ブロック引用

ブロック引用の場合は以下のようになる:■

~~~~ (引用文) ~~~~~  
~~~~  
~~~~。(阿井, ■垣 ■& ■伽菊, ■1996, ■p. ■00)

-----reference-----  
-----  
-----. ■(Ai, ■Kaki. ■& ■Kyakiku, ■1996, ■p. ■00)

日本語の場合、本文中出典明記の半角丸括弧の前にスペースは入れない。

かぎ括弧・コーテーションマークに囲った形での引用と違って、ブロック引用の場合は、句点・ピリオドで引用文が一旦終結してから本文中出典明記が入る。ブロック引用の導入文は「:■」で終止する。

単独ページからの引用の場合は p. ■00、複数ページに及ぶ引用の場合は pp. ■00-00 と記述する。

## 2) 本文中の出典明記のバリエーション

### (1) 引用作品直前の導入文で作品の貢献者名が紹介されている場合



阿井・垣・伽菊による研究は、「〜〜〜引用文〜〜〜」を示している(1996, p. 00)。

引用作品直前の導入文で作品の貢献者名が紹介されている場合は、本文中出典明記の半角丸括弧内には出版西暦年と該当ページ数を記述するだけでいい。

(2) 引用作品の導入文で、作品の貢献者名に続けて出版西暦年を半角丸括弧に入れて紹介している場合

阿井・垣・伽菊(1996)によれば、「〜〜〜引用文〜〜〜」という(p. 00)。

引用作品の導入文で、作品の貢献者名に続けて出版西暦年を半角丸括弧に入れて紹介している場合は、本文中出典明記の半角丸括弧内には該当ページ数だけでいい。

(3) 特定の文章を直接転写せず、自分の言葉で言い換えて引用するパラフレーズの場合

阿井・垣・伽菊によれば、〜〜〜パラフレーズ〜〜〜という(1996)。

パラフレーズしたものをかぎ括弧やコーテーションマークで囲ったり、ブロック引用のようにインデントを下げて記述してはいけない。  
パラフレーズで、ページ数の特定が難しい場合はページ数については言及しない。

(4) 貢献者がいない場合（匿名の貢献者の場合を除く）

[1] 貢献者名の記述がない場合

{1} 引用作品が書籍・雑誌などの一部分である場合は

「〜〜〜引用文〜〜〜」(「引用箇所のタイトル」, 1996, p. 00)。

“-----reference-----”(“Chapter/Article title,” 1996, p. 00)。

のように、引用箇所のタイトルを一重かぎ括弧やコーテーションマークに囲って、貢献者の代わりに記述する。

英語の場合はカンマがコーテーションマークの内側に入ることに注意。

引用作品タイトルが長すぎる場合は、途中までにすること。

{2} 引用作品が書籍・雑誌・シリーズ物の全体である場合は、

「〜〜〜引用文〜〜〜」(『作品タイトル』, 1996, p. 00)。

“-----reference-----”(Reference work title, 1996, p. 00)。

のように、引用作品のタイトルを二重かぎ括弧に囲ったり、イタリサイズして貢献者の代わりに記述する。

引用作品タイトルが長すぎる場合は、途中までにすること。

[2] 貢献者名に関して「匿名」と記述してある場合

(Anonymous, 1996, p.00)

貢献者名の記述がない場合、ではなく、貢献者に関して匿名と記述してある場合は、このような記述になる（日本語と英語で同じ記述となる）。

(5) 同じ貢献者による複数の作品からのパラフレーズ: 出版年が重複していない場合

(阿井, 垣 & 伽菊, 1996, p.00, 1999, p.00, 2003, p.00)

(Ai, Kaki. & Kyakiku, 1996, p.00, 1999, p.00, 2003, p.00)

同じ貢献者による、1996年と1999年と2003年に出版された3つの別の作品からのパラフレーズの場合は上記のようになる。

(6) 同じ貢献者による複数の作品からのパラフレーズ: 出版年に重複がある場合

(阿井, 垣 & 伽菊, 1996a, p.00, 1996b, p.00, 2003, p.00)

(Ai, Kaki. & Kyakiku, 1996a, p.00, 1996b, p.00, 2003, p.00)

同じ貢献者による、1996年に出版された2冊と2003年に出版された1冊の、合わせて3つの別の作品からのパラフレーズの場合は上記のようになる。

※論文末のReferencesにおいても、著者位置の貢献者と出版年が完全一致した場合には、Reference-work-title（引用作品タイトル）のアルファベット順に並べて、その順に、出版年の末尾に小文字アルファベットをaから順に振ること。出版年が「in press」の場合は、「in press-a」のように記述する。

(7) 複数の、貢献者が違う全く別の作品からのパラフレーズ

[1] 通常の記述

(阿井, 1996, p.00, 1999, p.00, 2003, p.00; 垣, 1996a, p.00, 1996b, p.00, 1996c, p.00; 伽菊, 1996-1999, 2003, p.00)

(Ai, 1996, p.00, 1999, p.00, 2003, p.00; Kaki, 1996a, p.00, 1996b, p.00, 1996c, p.00; Kyakiku, 1996-1999, 2003, p.00)

引用されたのは、

- ・ 阿井の1996年、1999年、2003年の作品
- ・ 垣の1996年の作品3つ
- ・ 伽菊の1996年から1999にかけて出版された作品（群）と、2003年の作品
  
- ・ Aiの1996年、1999年、2003年の作品
- ・ Kakiの1996年の作品3つ

・Kyakiku の 1996 から 1999 にかけて出版された作品（群）と、2003 年の作品  
……ということになる。

貢献者が共通していない複数の作品からのパラフレーズの場合は、上記のよう  
に各作品の情報を貢献者ごとに半角セミコロンの区切って記述する。

[2] 「…など」という記述

(阿井, [1996, p.00](#), [1999, p.00](#), [2003, p.00](#); **see also** 垣, [1996a, p.00](#),  
[1996b, p.00](#), [1996c, p.00](#), 伽菊, [1996-1999, 2003, p.00](#))

(Ai, [1996, p.00](#), [1999, p.00](#), [2003, p.00](#); **see also** Kaki, [1996a, p.00](#),  
[1996b, p.00](#), [1996c, p.00](#), Kyakiku, [1996-1999, 2003, p.00](#))

主要な引用元の他にも、参考として提示しておきたい作品がいくつかある場合  
は、主要な引用元の後に「; **see also**」と記述し、その後に、参考作品を貢献  
者ごとにカンマで区切って記述する。

「(7) 複数の、貢献者が違う全く別の作品からのパラフレーズ」の「[1] 通常の  
記述」と違うのは、「; **see also**」を記述した場合に、その後の区切りがセミコ  
ロンではなくカンマになるという点である。

[3] 「…も参照のこと」という記述

(阿井, [1996, p.00](#), [1999, p.00](#), [2003, p.00](#); 垣, [1996a, p.00](#), [1996b, p.00](#),  
[1996c, p.00](#); 伽菊, [1996-1999, 2003, p.00](#), **et al.**)

(Ai, [1996, p.00](#), [1999, p.00](#), [2003, p.00](#); Kaki, [1996a, p.00](#), [1996b, p.00](#),  
[1996c, p.00](#); Kyakiku, [1996-1999, 2003, p.00](#), **et al.**)

「(7) 複数の、貢献者が違う全く別の作品からのパラフレーズ」の「[1] 通常の  
記述」と同じように記述して、最後に「, **et al.**」を追加すると、…など、とい  
う意味になる。

(8) 私信からの引用

私信（手紙や e-mail など、公開でない場所でやり取りされた記録）は APA では  
Reference としての正式な資格を持たないため、論文末 References で詳細を記  
述できない。

よって本文中出典明記において詳細を記述することとなる。

(阿井, **personal communication**, 2008, January 1)

(Ai, **personal communication**, 2008, January 1)

鷹からの私信（2008 年 1 月 1 日着）の場合は上記のようになる。私信の媒体に  
ついては記述しなくて良い。

(9) 論文内の Table や Figure への言及

論文末尾の Table や Figure に言及した際は、以下のように記述する。

[1] 自作の Table や Figure の場合

(see Table 1)  
(see Figure 3)

[2] 引用した Table や Figure (手を加えたものも含む)

(see Table 2 of 阿井, 垣 & 伽菊, 1996)  
(see Figure 4 of 阿井, 垣 & 伽菊, 1996)

論文内に掲載した Table や Figure が自作のものでない場合は、上記のように原作者を記述する。

※本文中の引用箇所における本文中出典明記や、論文末尾の References (引用作品リスト) においては、日本語の作品であっても、本来英語論文向けの APA マニュアルにほぼ完全に合わせて、記号や句読点など全て半角のものを使用し、また半角スペースも英語と同様のやり方で挿入する。

### 1.3.2 Footnotes (文末脚注)

論文には文末脚注を入れることができる。注番号はアラビア数字を上付き小文字で記述する。

1) 本文側の注番号

(1) 本文側の注番号: 一文全体に対して注をつける場合

○○○○○、<sup>1</sup>  
○○○○○。<sup>1</sup>  
+++ +++ +++++,<sup>1</sup>  
+++ +++ +++++.<sup>1</sup>

このように一文全体の場合は句読点 (、。?! や,?! ) の後に注番号を打つ。

(2) 本文側の注番号: 文中の一部に対して注をつける場合

文中の一語・一フレーズに対して注をつける場合はこのようになる。

○○◎◎<sup>1</sup>○。  
+++ +++<sup>1</sup> +++++.

(3) 本文側の注番号: 括弧やダッシュに囲まれた文の一部

(○○○○○)<sup>1</sup>  
(○○○○○<sup>1</sup>)  
「○○○○○」<sup>1</sup>  
「○○○○○」<sup>1</sup>  
『○○○○○』<sup>1</sup>  
『○○○○○』<sup>1</sup>  
—○○○○○—<sup>1</sup>  
—○○○○○—<sup>1</sup>

(+++ +++ +++++)<sup>1</sup>  
(+++ +++ +++++)<sup>1</sup>

“+++ +++ +++++”<sup>1</sup>  
 “+++ +++ +++++”<sup>1</sup>”  
 ‘+++ +++ +++++’<sup>1</sup>  
 ‘+++ +++ +++++’<sup>1</sup>  
 -----<sup>1</sup>  
 -----<sup>1</sup>

- 文の一部が括弧やダッシュで囲われている場合は、括弧の種類にかかわらず、
- ・括弧やダッシュが文やフレーズの末尾に挿入されていて、括弧やダッシュを含む文・フレーズ全体に対して注をつけたい場合は、括弧やダッシュの外に注番号を打つ。
  - ・括弧やダッシュが文やフレーズの末尾に挿入されていて、括弧やダッシュの内部のみに対して注をつける場合は括弧やダッシュの内に注番号を打つ。

## 2) 論文末側の注番号

本文側で 1)のように注番号を振った箇所は、論文の末尾に Footnotes という標題のページを作って、そこに順番に注を記述できる。

<sup>1</sup> ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○.....  
<sup>2</sup> ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○.....  
<sup>3</sup> ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○.....  
  
<sup>1</sup> ■+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++.....  
<sup>2</sup> ■+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++.....  
<sup>3</sup> ■+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++.....

注番号と注の記述の間には半角スペースを挟む。

### 1.3.3 Table と Figure

#### 1.3.3.1 Table

##### 1) Table ナンバーと Table タイトル

各 Table には必ず、**Table の直前に** Table ナンバーと Table タイトルを振らなくてはならない

Table ■00

*CGS 所蔵図書と各利用率*

Table ■00

*Utilization rates of the CGS book collection*

上記の例が示すように、Table ナンバーは必ずアラビア数字で示し、Table タイトルは日本語・英語ともにイタリサイズする。

##### 2) Table の各項目のナンバリング

#### 1.2.4 Table や Figure の項目にナンバーを振りたくない場合 (CGS 紀要専用ルール)

で示したように、CGS 紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』においては、Table 中の項目にナンバーを振りたくない場合は、日本語論文・英語論文にかかわらず

[1] ■item

[2] ■item  
[3] ■item  
[4] ■item

...  
という風にナンバーを振る。必要に応じて

[1] ■item  
[2-a] ■item  
[2-b] ■item  
[3-a] ■item  
[3-b] ■item  
[3-c] ■item

のようにしてレベルを設定してもよい。

文字色はレベルをわかりやすくするためのもので、論文内では行わない。

### 3) Table の Note

Table の直下には、Table に関する Note を記述できる。

#### (1) 一般的な注

Note. ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

Note. ■++++ +++ ++++++ +++ ++++++ +++ +++++.

Note.の部分だけイタリサイズするという点に注意。  
Note には見出しの段階は設定できない。

#### (2) Table の footnote

Note では Table のタイトルや各項目に対する footnote をつけることもできる。  
記述方法は、

- ・ Table 側の注番号を、注をつけたい語句の直後にアルファベット上付き小文字で記述する
- ・ Note 側の注番号もアルファベット上付き小文字で記述し、また Footnote と違って各注は改行せずに並べる。

という 2 点以外は、本文の Footnotes (文末脚注) と変わらない。

Note. ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>a</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。  
<sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>c</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

Note. ■++++ +++ ++++++ +++ ++++++ +++ +++++. <sup>a</sup>■++++ +++ ++++++ +++  
+++++++ +++ +++++. <sup>b</sup>■++++ +++ ++++++ +++ ++++++ +++ +++++. <sup>c</sup>■++++  
++++ ++++++ +++ ++++++ +++ +++++.

※Table の Footnote は、一般的な注があればその後に記述されるので、順番に注意。

#### (2) Table の出典

Table がどこかからの引用である場合は、Note でその出典について記述しなくてはならない。

※下で例示してある Table の出典の Template は、References の記述の、末尾追加情報内正本情報と書式が完全に一致しているため、実際の記述の例は正本情報の項目を参照のこと。

[1] 元の Table をそのまま引用した場合

{1} 引用元が非定期刊行物の 1 巻全体、あるいは複数巻全体の場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Note. ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>a</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○。 ■<sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>c</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。  
Reprinted from ■『作品タイトル』, ■Version-name ■version, ■0th ■ed., ■Vols. ■  
0-00, ■Thesis/Dissertation ■information, ■Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■  
Suff., ■Contribution, ■YEAR, ■Location, ■SA: ■Publisher.

Note. ■+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■<sup>a</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
+++++++ +++ +++++. ■<sup>b</sup>+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■<sup>c</sup>+++  
+++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. Reprinted from ■Reference ■work  
title, ■Version-name ■version, ■0th ■ed., ■Vols. ■0-00, ■Thesis/Dissertation ■  
information, ■Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■Suff., ■Contribution, ■YEAR, ■  
Location, ■SA: ■Publisher.

※Table の出典は、Table の Footnote や一般的な注があればその後に記述されるので、順番に注意。

{2} 引用元が非定期刊行物中に、その一部として（巻を別立てせずに）掲載されたものである場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Note. ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>a</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○○。 ■<sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>c</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。  
Reprinted from ■「章・記事タイトル」 ■title, ■Version-name ■version, ■0th ■ed.,  
■Vols. ■0-00, ■Thesis/Dissertation ■information, ■Description, ■by ■G. ■M. ■  
Surname ■Suff., ■Contribution, ■in ■『収録巻タイトル』, ■Version-name ■version,  
■0th ■ed., ■Vols. ■0-00, ■pp. ■00-00, ■Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■Suff., ■  
Contribution, ■YEAR, ■Location, ■SA: ■Publisher.

Note. ■+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■<sup>a</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
+++++++ +++ +++++. ■<sup>b</sup>+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■<sup>c</sup>+++  
+++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. Reprinted from ■“Chapter/Article  
title,” ■Version-name ■version, ■0th ■ed., ■Vols. ■0-00, ■Thesis/Dissertation ■  
information, ■Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■Suff., ■Contribution, ■in ■Whole  
■work ■title, ■Version-name ■version, ■0th ■ed., ■Vols. ■0-00, ■pp. ■00-00, ■  
Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■Suff., ■Contribution, ■YEAR, ■Location, ■SA: ■  
Publisher.

※Table の出典は、Table の Footnote や一般的な注があればその後に記述されるので、順番に注意。

{3} 写しの元（正本）が定期刊行物に掲載されている場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Note. ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>a</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○。 ■<sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>c</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。  
Reprinted from ■「章・記事タイトル」, ■Thesis/Dissertation ■information, ■  
Description, ■『収載巻タイトル』, ■00(00)-00(00), ■00-00, ■Description, ■by ■G.  
■M. ■Surname ■Suff., ■Contribution, ■YEAR.

Note. ■+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■<sup>a</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
+++++++ +++ +++++. ■<sup>b</sup>+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■<sup>c</sup>+++  
+++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■Reprinted from ■“Chapter/Article  
title,” ■Thesis/Dissertation ■information, ■Description, ■Whole ■work ■title, ■  
00(00)-00(00), ■00-00, ■Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■Suff., ■Contribution, ■  
YEAR.

※Table の出典は、Table の Footnote や一般的な注があればその後に記述される  
ので、順番に注意。

[2] 元の Table を改変して引用した場合

{1} 引用元が非定期刊行物の 1 巻全体、あるいは複数巻全体の場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Note. ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>a</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○。 ■<sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>c</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。  
Adapted from ■『作品タイトル』, ■Version-name ■version, ■0th ■ed., ■Vols. ■0-00,  
■Thesis/Dissertation ■information, ■Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■Suff., ■  
Contribution, ■YEAR, ■Location, ■SA: ■Publisher.

Note. ■+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■<sup>a</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
+++++++ +++ +++++. ■<sup>b</sup>+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■<sup>c</sup>+++  
+++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. ■Adapted from ■Reference ■work ■title,  
■Version-name ■version, ■0th ■ed., ■Vols. ■0-00, ■Thesis/Dissertation ■  
information, ■Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■Suff., ■Contribution, ■YEAR, ■  
Location, ■SA: ■Publisher.

※Table の出典は、Table の Footnote や一般的な注があればその後に記述される  
ので、順番に注意。

{2} 引用元が非定期刊行物中に、その一部として（巻を別立てせずに）掲載され  
たものである場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Note. ■○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>a</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○。 ■<sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 ■<sup>c</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。  
Adapted from ■「章・記事タイトル」 ■title, ■Version-name ■version, ■0th ■ed., ■  
Vols. ■0-00, ■Thesis/Dissertation ■information, ■Description, ■by ■G. ■M. ■  
Surname ■Suff., ■Contribution, ■in ■『収載巻タイトル』, ■Version-name ■version,  
■0th ■ed., ■Vols. ■0-00, ■pp. ■00-00, ■Description, ■by ■G. ■M. ■Surname ■Suff., ■  
Contribution, ■YEAR, ■Location, ■SA: ■Publisher.



Note. ■■■■ ■■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■. <sup>a</sup> ■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■. <sup>b</sup> ■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■. <sup>c</sup> ■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■. **Adapted** from "Chapter/Article title," **Version-name** version, **0th ed.**, **Vols.** 0-00, **Thesis/Dissertation** information, **Description**, **by** G. M. Surname **Suff.**, **Contribution**, **in** *Whole work title*, **Version-name** version, **0th ed.**, **Vols.** 0-00, **pp.** 00-00, **Description**, **by** G. M. Surname **Suff.**, **Contribution**, **YEAR**, **Location**, **SA:** **Publisher**.

※Table の出典は、Table の Footnote や一般的な注があればその後に記述されるので、順番に注意。

{3} 写しの元（正本）が定期刊行物に収載されている場合  
基本的なテンプレートは以下の通り。

Note. ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>a</sup> ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
○。 <sup>b</sup> ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>c</sup> ○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○  
**Adapted** from 「章・記事タイトル」, **Thesis/Dissertation** information, **Description**, 『**収載巻タイトル**』, **00(00)-00(00)**, **00-00**, **Description**, **by** G. M. Surname **Suff.**, **Contribution**, **YEAR**.

Note. ■■■■ ■■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■. <sup>a</sup> ■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■. <sup>b</sup> ■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■. <sup>c</sup> ■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■■■■■ ■■■ ■■■■. **Adapted** from "Chapter/Article title," **Thesis/Dissertation** information, **Description**, *Whole work title*, **00(00)-00(00)**, **00-00**, **Description**, **by** G. M. Surname **Suff.**, **Contribution**, **YEAR**.

※Table の出典は、Table の Footnote や一般的な注があればその後に記述されるので、順番に注意。

### 1.3.3.2 Figure

1) Figure ナンバーと Figure タイトル（説明）

各 Figure には必ず、**Figure** の直後に Figure ナンバーと Figure タイトル（説明）を振らなくてはならない

*Figure* 00. CGS 所蔵図書と各利用率。

*Figure* 00. Utilization rates of the CGS book collection.

以下の 4 点に注意

- ・ Table と違って、Figure の場合はナンバーとタイトル（説明）を Figure 自体の下に記述する。
- ・ Table と違って Figure のタイトルは長くてかまわない（Figure の説明を以ってタイトルとしてかまわない）。
- ・ Table と違って、Figure の場合は「*Figure* 00」の後にピリオドを打つ。
- ・ Table と違って、Figure の場合は「*Figure* 00」の部分がイタリックになり、逆にタイトル（説明）はイタリサイズしない。

上記の例が示すように、Figure ナンバーは必ずアラビア数字で示す。

## 2) Figure の各項目のナンバリング

1.2.4 Table や Figure の項目にナンバーを振りたい場合（CGS 紀要専用ルール）  
で示したように、CGS 紀要『ジェンダー&セクシュアリティ』においては、Figure  
中の項目にナンバーを振りたい場合は、日本語論文・英語論文にかかわらず

[1] ■item  
[2] ■item  
[3] ■item  
[4] ■item

...

という風にナンバーを振る。必要に応じて

[1] ■item  
[2-a] ■item  
[2-b] ■item  
[3-a] ■item  
[3-b] ■item  
[3-c] ■item

のようにしてレベルを設定してもよい。

文字色はレベルをわかりやすくするためのもので、論文内では行わない。

## 3) Figure の Note

Figure の直下には、Figure に関する Note を記述できる。

### (1) Figure タイトル（説明）と一般的な注

Figure ■00. ■CGS 所蔵図書と各利用率。○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

Figure ■00. ■Utilization rates of the CGS book collection. ■+++ +++ ++++++  
+++ ++++++ +++ +++++.

Table と違って「Note.」を記述せず、Figure ナンバー・Figure タイトル（説明）  
の後に続けてそのまま Note を記述する。  
Note には見出しの段階は設定できない。

### (1) Figure の footnote

Note では Figure のタイトルや各項目に対する footnote をつけることもできる。  
記述方法は、

- ・ Figure 側の注番号をアルファベット上付き小文字で記述する
- ・ Note 側の注番号もアルファベット上付き小文字で記述し、また Footnote と違  
って各注は改行せずに並べる。

という 2 点以外は、本文の Footnotes（文末脚注）と変わらない。

Figure ■00. ■CGS 所蔵図書と各利用率。○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>a</sup>  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>c</sup>○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○。

Figure 00. ■Utilization rates of the CGS book collection. ■+++ +++ ++++++  
+++ ++++++ +++ +++++. <sup>a</sup>■+++ +++ ++++++ +++ +++++. <sup>b</sup>■

+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>c</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
+++++++ +++ +++++.

※Figure の Footnote は、Figure タイトル（説明）と一般的な注の後に記述されるので、順番に注意。

## (2) Figure の出典

Figure がどこかからの引用である場合は、Note でその出典について記述しなくてはならない。

※下で例示してある Figure の出典の Template は、References の記述の、末尾追加情報内正本情報と書式が完全に一致しているため、実際の記述の例は正本情報の項目を参照のこと。

[1] 元の Figure をそのまま引用した場合

{1} 引用元が非定期刊行物の 1 巻全体、あるいは複数巻全体の場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Figure 00. CGS 所蔵図書と各利用率。○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>a</sup>  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>c</sup>○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 Reprinted from 『作品タイトル』,   
Version-name version, 0th ed., Vols. 0-00, Thesis/Dissertation information,   
Description, by G. M. Surname Suff., Contribution, YEAR, Location, SA:   
Publisher.

Figure 00. Utilization rates of the CGS book collection. +++ +++ ++++++++  
+++ ++++++++ +++ +++++. <sup>a</sup>+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>b</sup>  
+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>c</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
+++++++ +++ +++++. Reprinted from Reference work title, Version-name  
version, 0th ed., Vols. 0-00, Thesis/Dissertation information, Description,   
by G. M. Surname Suff., Contribution, YEAR, Location, SA: Publisher.

※Figure の出典は、Figure の Footnote や Figure タイトル（説明）と一般的な注の後に記述されるので、順番に注意。

{2} 引用元が非定期刊行物中に、その一部として（巻を別立てせずに）掲載されたものである場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Figure 00. CGS 所蔵図書と各利用率。○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>a</sup>  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>c</sup>○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 Reprinted from 「章・記事タイトル」 title,   
Version-name version, 0th ed., Vols. 0-00, Thesis/Dissertation information,   
Description, by G. M. Surname Suff., Contribution, in 『収載巻タイトル』,   
Version-name version, 0th ed., Vols. 0-00, pp. 00-00, Description, by G.   
M. Surname Suff., Contribution, YEAR, Location, SA: Publisher.

Figure 00. Utilization rates of the CGS book collection. +++ +++ ++++++++  
+++ ++++++++ +++ +++++. <sup>a</sup>+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>b</sup>

+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>c</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
 ++++++++ +++ +++++. Reprinted from "Chapter/Article title," Version-name  
 version, 0th ed., Vols. 0-00, Thesis/Dissertation information, Description,  
 by G. M. Surname Suff., Contribution, in Whole work title, Version-name  
 version, 0th ed., Vols. 0-00, pp. 00-00, Description, by G. M. Surname  
 Suff., Contribution, YEAR, Location, SA: Publisher.

※Figure の出典は、Figure の Footnote や Figure タイトル（説明）と一般的な注の後に記述されるので、順番に注意。

{3} 写しの元（正本）が定期刊行物に収録されている場合  
 基本的なテンプレートは以下の通り。

Figure 00. CGS 所蔵図書と各利用率。○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>a</sup>  
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>c</sup>○○  
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○。 Reprinted from 「章・記事タイトル」,  
 Thesis/Dissertation information, Description, 『収録巻タイトル』,  
 00(00)-00(00), 00-00, Description, by G. M. Surname Suff., Contribution,  
 YEAR.

Figure 00. Utilization rates of the CGS book collection. +++ +++ ++++++++  
 +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>a</sup>+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>b</sup>  
 +++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>c</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
 ++++++++ +++ +++++. Reprinted from "Chapter/Article title,"  
 Thesis/Dissertation information, Description, Whole work title,  
 00(00)-00(00), 00-00, Description, by G. M. Surname Suff., Contribution,  
 YEAR.

※Figure の出典は、Figure の Footnote や Figure タイトル（説明）と一般的な注の後に記述されるので、順番に注意。

[2] 元の Figure を改変して引用した場合

{1} 引用元が非定期刊行物の 1 巻全体、あるいは複数巻全体の場合  
 基本的なテンプレートは以下の通り。

Figure 00. CGS 所蔵図書と各利用率。○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>a</sup>  
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○。 <sup>c</sup>○○  
 ○○○○○○○○○○○○○○○○○。 Adapted from 『作品タイトル』, Version-name  
 version, 0th ed., Vols. 0-00, Thesis/Dissertation information, Description,  
 by G. M. Surname Suff., Contribution, YEAR, Location, SA: Publisher.

Figure 00. Utilization rates of the CGS book collection. +++ +++ ++++++++  
 +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>a</sup>+++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>b</sup>  
 +++ +++ ++++++++ +++ ++++++++ +++ +++++. <sup>c</sup>+++ +++ ++++++++ +++  
 ++++++++ +++ +++++. Adapted from Reference work title, Version-name  
 version, 0th ed., Vols. 0-00, Thesis/Dissertation information, Description,  
 by G. M. Surname Suff., Contribution, YEAR, Location, SA: Publisher.

※Figureの出典は、FigureのFootnoteやFigureタイトル（説明）と一般的な注の後に記述されるので、順番に注意。

{2} 引用元が非定期刊行物中に、その一部として（巻を別立てせずに）掲載されたものである場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Figure 00. CGS 所蔵図書と各利用率。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。<sup>a</sup>  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。<sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。<sup>c</sup>○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。Adapted from 「章・記事タイトル」 title,   
Version-name version, 0th ed., Vols. 0-00, Thesis/Dissertation information,   
Description, by G. M. Surname Suff., Contribution, in 『収録巻タイトル』,   
Version-name version, 0th ed., Vols. 0-00, pp. 00-00, Description, by G.   
M. Surname Suff., Contribution, YEAR, Location, SA: Publisher.

Figure 00. Utilization rates of the CGS book collection. +++ +++ ++++++  
+++ ++++++ +++ +++++. <sup>a</sup> +++ +++ ++++++ +++ ++++++ +++ +++++. <sup>b</sup>   
+++ +++ ++++++ +++ ++++++ +++ +++++. <sup>c</sup> +++ +++ ++++++ +++   
+++++++ +++ +++++. Adapted from “Chapter/Article title,”   
Version-name   
version, 0th ed., Vols. 0-00, Thesis/Dissertation information, Description,   
by G. M. Surname Suff., Contribution, in Whole work title, Version-name   
version, 0th ed., Vols. 0-00, pp. 00-00, Description, by G. M. Surname   
Suff., Contribution, YEAR, Location, SA: Publisher.

※Figureの出典は、FigureのFootnoteやFigureタイトル（説明）と一般的な注の後に記述されるので、順番に注意。

{3} 写しの元（正本）が定期刊行物に掲載されている場合

基本的なテンプレートは以下の通り。

Figure 00. CGS 所蔵図書と各利用率。○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。<sup>a</sup>  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。<sup>b</sup>○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。<sup>c</sup>○○  
○○○○○○○○○○○○○○○○○○○○。Adapted from 「章・記事タイトル」,   
Thesis/Dissertation information, Description, 『収録巻タイトル』,   
00(00)-00(00), 00-00, Description, by G. M. Surname Suff., Contribution,   
YEAR.

Figure 00. Utilization rates of the CGS book collection. +++ +++ ++++++  
+++ ++++++ +++ +++++. <sup>a</sup> +++ +++ ++++++ +++ ++++++ +++ +++++. <sup>b</sup>   
+++ +++ ++++++ +++ ++++++ +++ +++++. <sup>c</sup> +++ +++ ++++++ +++   
+++++++ +++ +++++. Adapted from “Chapter/Article title,”   
Thesis/Dissertation information, Description, Whole work title,   
00(00)-00(00), 00-00, Description, by G. M. Surname Suff., Contribution,   
YEAR.

※Figureの出典は、FigureのFootnoteやFigureタイトル（説明）と一般的な注の後に記述されるので、順番に注意。

### 1.3.4 Appendix

論文に付録がある場合は、Appendix を記述できる。

#### 1) Appendix のラベルナンバー

Appendix は内容によってグループ分けし、本文で言及した順に Appendix A、Appendix B、Appendix C.....と Appendix ナンバーを振る。各 Appendix 間は必ず改ページする。

#### 2) Appendix の見出しの段階

Appendix は本文と切り離された存在なので、見出しを設定する必要がある場合は、見出しの段階を本文と通し番号にせず、新しく 1 から振り直すこと。

#### 3) Appendix における Table のナンバーとタイトル

Table ■C2

*CGS 所蔵図書と各利用率*

Table ■C2

*Utilization rates of each CGS books*

Table が Appendix にある場合は、Table ナンバーはほか本文中の Table との通し番号にせず、上記の例のように Appendix C の 2 番目の Table の場合は「Table ■C2」のように記述すること。それ以外の記述は通常の Table と完全に同じ。

※Appendix が一つしかない場合は、Appendix のタイトルはただの Appendix になり、Appendix A とはならないが、その場合でも Table ナンバーは Table A となる点に注意。

#### 4) Appendix における Figure の Figure のナンバーとタイトル

Figure ■C2. ■CGS 所蔵図書と各利用率。

*Figure ■C2. ■Utilization rates of each CGS books.*

Figure が Appendix にある場合は、Figure ナンバーは本文中の Figure との通し番号にせず、上記の例のように Appendix C の 2 番目の Figure の場合は「Figure ■C2」のように記述すること。それ以外の記述は通常の Figure と完全に同じ。

※Appendix が一つしかない場合は、Appendix のタイトルはただの Appendix になり、Appendix A とはならないが、その場合でも Figure ナンバーは Figure A となる点に注意。